豆の町（ビーンタウン）から こんにちは（第13回）

会員家族　住井　円香

■「正しい」行動は善なのか

ボストン大学に入学するときに、アメリカ育ちの日本人の先輩に校風について聞いてみたことがあります。すると、あまりこれといった校風はない、と前置きをしたうえで、あえて表現するならば「Mind your own business」という考え方を持つ学生が多いと言われました。直訳すると、いちいち他の人のことを気にする時間があるのならば自分のことに専念するべき、つまり、誰かに干渉されたときに、余計なお世話だ、ということを指摘するフレーズです。このようにネガティブな意味で使われることが多いのですが、この話を聞いた時に、お節介だと干渉されることを嫌う日本の大学生の友人たちと、アメリカの若者もあまり変わらないのだと捉えたことを思い出します。

確かに、入学してから振り返ってみると、手助けを前提とするのではなく、自分で物事を解決する意欲が強い学生が多い印象があります。今年度の学生数は4万人弱と、私が入学した当初より更に増え、大学側のサポート体制が追い付かないのか、問い合わせをしても、対応には穴があったり、返答が遅いこともしばしばです。このような環境から学生の自己解決能力が伸びていくのか、はたまた元々干渉を好まないタイプが入学してきやすいのかはわかりません。

学生間で助け合いがないというわけでは決してなく、一人で対処できない困難な状況や、悩みを打ち明ければ寄り添い合うコミュニティでもあります。矛盾しているようにも見えるかもしれませんが、学生たちは多様な背景を抱えているために、自分の手助けの仕方が場合によっては相手の文化にとって失礼と捉えられるかもしれないから、はっきりと困っているという言葉を聞くまではそっとしている側面も強いように思います。誰もが同じ考え方をしていないことをわかっているがゆえに、他人と自分の境界線をくっきりと引くところも、日本の若者とも共通していると感じています。

そしてこれまでも、政治的な対立や大学の方針をめぐり、キャンパスの雰囲気がヒートアップすることは何度かありました。イスラエルやパレスチナのそれぞれを批判するデモは繰り返し行われてきましたし、学生を指導するティーチングアシスタントの給与をめぐるストライキもなかなか落ち着きませんでした。しかし一方で、ストライキ以外は学生に直接的なダメージが特にはなく、騒がしい雰囲気が続くという程度のものでした。ところが最近は、大学内外で学生の一部が極端な行動に移るケースが出てきています。

ボストン大学の中心を走る大通り、コモンウェルス・アベニューをまっすぐ西に向かうと、オールストン（Allston）という地域があります。寮以外で暮らす学生のほとんどがオールストンで部屋を借りているほか、人気ロックバンドのエアロスミスがかつて住んでいたアパートが残り、学生が集まるボストンの中でも特に若者の街という顔が強い印象です。中華や韓国料理、和食などアジア系のレストランやカラオケなどもあり、漢字やハングルなどで書かれた看板が並んでいる異国情緒あふれる街でもあります。個人的には、ボストン中心部にある中華街よりもずっと安価で本格的な料理が食べられ、部室から徒歩10分圏内なので隠れお気に入りスポットです。

11月初め、そんなオールストンにある洗車業者で働く従業員9名が一斉に移民・関税執行局（通称ＩＣＥ）に連行される出来事が起こりました。9人は全員労働許可証を持っていて前科はないそうですが、当局は入国方法などに不審な点があったとしています。その数日後、Ｘ（旧ツイッター）において、嘘か誠か、私の大学の共和党クラブの会長であるザック・シーガルは、繰り返しＩＣＥに通報し続けていたがようやく「犯罪者」の逮捕にこぎつけたと呟き、大学内外から強い反発を招きました。彼自身が両親ともに英国籍で出生時にアメリカで誕生したことによる二重国籍者であることからも、ダブルスタンダードではないかという声もありました。

個人だけではなく、団体も決して平和的とは言えない行動に移りました。先日、アメリカ航空宇宙学会のボストン大学学生支部が、航空宇宙業界の採用担当者を招いた、学生会員向けの交流会を行いました。この団体には工学部の学生が中心に所属し、理系人材の就職難が強まりつつある現況もあり、企業との繋がりを得る機会として参加の重要性が増しているようです。そして、教室を貸し切って教授も見守る中で開催されたイベントに、親パレスチナ派のグループが突如乱入。イベントに招かれた企業が戦闘機の開発などを行っているとして、イスラエルによるジェノサイドに加担していると主張、教室の窓にビラを貼るなどの妨害を行いました。また、採用担当者に対しても会社を非難するなど、教室は一時騒然とした雰囲気だったといいます。そのグループのインスタグラムでは、後日イベントに訪れた企業を「戦犯」と呼び、その場にいた学生や採用担当者を映した映像を公開しました。

これらの過激な動きは、もちろんほんの一部の学生によるものですが、意見の主張によって意識変革を促すのではなく、自分の考えに合わない人を標的にするような手段の行動が取られることが起きていることに危機感を覚えました。学内のデモやストライキを初めて見たときにも驚きましたが、今回の乱入行為は暴力沙汰までには至っていないものの攻撃的でした。音声拡声器によるノイズや交通の妨げ以外には大きな影響のないデモなどとは明らかに性質が異なります。ただ、こうした強引な行動は他の学生からの反発を煽ることもあるため、彼らが真に望んだ結果につながるのかはわかりません。学生同士の議論の場でも、差別用語や意見が対立する相手の人格を否定するような言葉が飛び交うことも増えてきたように感じます。こうした落ち着かない状況だからこそ、まずは相手の意見に耳を傾けることを通常以上に意識したいと思いました。

漢詩壇「世話係」募集のお知らせ

編集委員会

野村知治先生のご逝去に伴い漢詩壇世話係をしていただける方を募集します。自薦・他薦を問いません。

ご連絡先　陸修偕行社　編集委員会
電　話：03（6380）0623
FAX：03（6380）0624
メール：henshu@rikushukaikosha.or.jp